

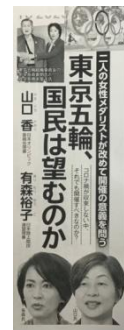
コロナ禍で東京五輪を開催していいのか

写真は(名古屋駅前を走る東京五輪の聖火ランナー。奥は巨大マネキン「ナナちゃん」
=5日午後、大阪日日7日)。人手多数、「密」に神経使う。聖火リレーから「GO TO 五輪」
へと向かうのか。

一方で新型コロナ感染拡大が止まらない。大阪や兵庫では変異株による感染も急増している。大阪では一気に患者が増え、医療逼迫となり「医療非常事態」を宣言した。新規感染者は東京をはじめとして、全国に広がりつつあり、まさに危機的状況だ。



こんなコロナ禍で、100日余りに迫る東京五輪が開催できるのか。いや開催していいのか。政治的な打算ではなく、開催中止に向けた早急な決断が求められている。『文藝春秋』4月号「東京五輪、国民は望むのか」、山口香・東京オリンピック委員会理事と有森裕子・日本陸上競技連盟理事の対談が示唆に富む。「二人の女性メダリストが改めて開催の意義を問う」もので、抜粋して紹介する。



有森 コロナの流行がなかなか収束しない中、「本当にオリンピック・パラリンピックをやるのか」という懐疑の声が広がっています。私はアスリートだけではなく、応援してくれる国民も五輪の主役だと思っています。だから不安が残るフィールドに選手たちを立ててよいのか、という気持ちになる。香さんは？

山口 せめて国民の50%以上が「五輪を見たい」という世論がある中でないと不安を与えるだけの「お荷物」になりかねない。「延期」「中止」を合わせて80%近い世論が続けば、かなり厳しいと思います。その上で、リスク要因を丁寧に分析して、データを国民に打ち返す努力を重ねておかないと、万が一にも中止となった場合、不信感だけが残る、今後の五輪招致の素地は失われるのではないかと危惧します。

山口 無観客なら東京でやらなくて、いいですよね。

有森 無観客は意味ないんです。

山口 だって無観客だとお祭りじゃなくてただの「競技会」なんです。競技会というだけなら、出場者の人数や年齢に制限がある五輪より世界選手権の方が、より広く優れた競技者を集めることができる。だから世界陸上やテニスのウィンブルドンならば、無観客で開催することにも意味があります。五輪は違う。

有森 五輪の観客は、お客さんではなくて主役なんです。主役を抜きにしてまで開催する必要があるんでしょうか。

山口 ここで無観客を選択すれば、入場料収入以前の問題として、自分たちでますますオリンピックの存在意義を失わせることになってしまいます。

(2021年4月9日)